

平成 28 年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

平成 28 年 3 月 31 日制定

平成 29 年 2 月 3 日変更

(序 文)

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、平成 25 年 3 月 29 日付け 24 受庁文第 1465 号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度の事業の実施に当たっては、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災からの復興状況を踏まえて、当振興会に課された使命の達成に努める。また、平成 32 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムへ積極的に参画する。

なお、本年度は国立劇場開場 50 周年の記念の年に当たる。当振興会の役割について国民の理解を得て、我が国の伝統芸能の保存と振興に資するため、記念公演等の各種記念事業を実施する。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）の運用収入等を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

- ① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
 - (a) 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動
 - (b) 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動
 - (c) 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等
- ② 地域の文化の振興を目的として行う活動
 - (a) 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
 - (b) 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動
- ③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動
 - (a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動
 - (b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

- ① 我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動
- ② 優れた日本映画の製作活動

ウ 助成金交付事務の効率化等

- ① 前年度に引き続き、基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表する。
- ② 助成対象活動について、専門委員及び専門調査員並びにプログラムディレクター及びプログラムオフィサー（以下「PD・PO」という。）等により、採択の審査過程で当該活動に期待された点の実現状況の確認などを目的とした公演等調査を行う。特に、補助金による助成対象活動のうち、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野については、その調査結果を踏まえて事後評価を行い、その結果を次年度の助成対象活動の採択のための審査等に活用する。
 - ・ 公演等調査：400件以上（助成対象活動数）
- ③ 助成対象活動に係る会計の執行状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、PD・POが中心となって、助成対象活動等について、助成対象団体との意見交換を実施する。
 - ・ 会計調査：90件以上（団体数）
- ④ 助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等の結果を踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行う。
- ⑤ 文化芸術活動に対する助成制度の改善策を検討する基礎的資料とするため、助成対象活動の収支の状況、団体の意識・取組等に係る情報を収集・整理し、経年の変化や分野別の特徴・傾向などの調査分析を行う。その成果については、随時ホームページ等を通じて発信する。
- ⑥ 地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付に係る業務等の効率化が図れるよう、地方公共団体と連携・協力する。
- ⑦ 事務手続きの合理化を図るため、助成金交付事務に係る助成業務システムについて、応募書類の電子データによる受付等の実施について引き続き検討する。
 - 基金及び補助金の助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間を35日以下とする。

エ 基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

オ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知を図り、芸術文化振興基金の受入拡充に努める。

カ 東日本大震災に伴う被災地の復興支援を目的とした芸術文化復興支援基金による助成事業について、対象となる地方公共団体の意向を十分に踏まえ、被災地の状況にあわせた効果的な支援を行う。

キ PD・PO等を活用した審査・評価等の仕組みについては、文化庁と連携し、試行的取組の成果を踏まえ、助成に係る業務の精度を更に高める。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術団体が基金を含めた多様な助成制度を活用することができるよう、官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集し、ホームページ等を通じて提供する。

- ・ ホームページ目標アクセス件数：130,000件

イ 振興会が実施する文化芸術活動に対する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させる。また、引き続き助成対象活動の事例集を作成・配布するとともに、ホームページに掲載する。

- ウ 助成対象活動の募集に当たっては、ホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。
- エ 芸術団体等を対象とした応募相談会を、東京及び大阪のほか、各道府県及び政令指定都市の希望を考慮して開催する。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施する。

イ 演目の拡充

① 歌舞伎について、平成 17 年度に作成した「復活上演候補演目一覧」の見直しを継続するとともに、「国立劇場文芸研究会」において、上演候補台本準備稿の作成作業を進める。

また、歌舞伎の新作脚本募集について、選考及び表彰を行う。

② 文楽について、新作の上演を行う。また、廃絶演目の復曲作業を進めるとともに、上演に向けた準備作業を行う。

③ 大衆芸能の新作脚本募集について、「漫才・コント」の作品を募集し、選考及び表彰を行う。

④ 能楽について、国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された、新作・復曲作品の再演を行う。

⑤ 組踊等沖縄伝統芸能について、上演機会が少ない優れた演目や、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演を行う。

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施する。

(3) 青少年等を対象とした公演

ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした入門企画を別表 4 のとおり実施する。実施に当たっては、各公演等の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。実施に当たっては、各公演の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。

イ 我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。

① 共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施する。

② 全国各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施する。

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施する。

(5) 快適な観劇環境の形成

ア 観客にとって快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえ、売店・レス

トラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行う。

また、高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮し、劇場内外の環境整備等各種サービスの充実に努める。

イ 入場券販売において、インターネットやスマートフォンなど、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供する。

ウ 公演内容等の理解を促進するため、公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示を行う。また、鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会を行う。

エ アンケート調査等により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。

ホームページや各劇場に設置するご意見箱等を通じて寄せられる意見・要望については、一元的に管理し、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化を図る。また、内容を集計・分析し、その結果をサービスの向上に活用する。

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。

② 振興会各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。

(a) ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに、アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。

- ・ 日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：3,000,000件
- ・ 国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：293,000件
- ・ 新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：3,700,000件

(b) メールマガジンにより、公演等の情報を随時配信する。

(c) 外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を強化する。

(d) 国立劇場開場50周年記念事業について、特別ポスター・チラシ、ホームページ上の特設サイト等の広報活動を実施する。

③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。

- ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
- ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
- ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）

④ 観劇を促進するため、観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券等を企画・販売するほか、各種キャンペーンを企画・実施する。

⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開するとともに、旅行代理店・ホテル等との連携を強化する。

⑥ 若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営し、サービスを提供する。また、引き続き会員校の増加に努めるとともに、利用者の要望等を踏まえ、サービスの拡充を図る。

⑦ 全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、観劇の促進のため、会報等による情報提供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービス

を提供する。また、引き続きアンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用する。

新規会員について、会員向けサービスの周知により、引き続き増加に努める。

- ① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）
 - ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年8回程度
 - ・ 目標会員数：18,000人
- ② 国立文楽劇場友の会
 - ・ 「国立文楽劇場友の会会報」（年6回発行）
 - ・ 会員向けイベント：年6回程度
 - ・ 目標会員数：8,100人
- ③ 国立劇場おきなわ友の会
 - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」（年4回発行）
 - ・ 会員向けイベント：年3回程度
 - ・ 目標会員数：2,200人
- ④ クラブ・ジ・アトレ（新国立劇場）
 - ・ 会報「ジ・アトレ」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年12回程度
 - ・ 目標会員数：9,700人

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を次のとおり貸与する。

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	73日	82%
本館小劇場	129日	72%
演芸場	104日	89%
能楽堂本舞台	180日	69%
文楽劇場	80日	62%
文楽劇場小ホール	91日	52%
国立劇場おきなわ大劇場	65日	42%
国立劇場おきなわ小劇場	131日	65%
（小計）	853日	68%
新国立劇場オペラ劇場	31日	44%
新国立劇場中劇場	211日	82%
新国立劇場小劇場	159日	82%
（小計）	401日	71%
（合計）	1,254日	69%

※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供（主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演）を行った日数の割合。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。

- ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。
- ② パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。
- ③ 利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。

- ④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図る。
- ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を引き続き行うとともに、調査結果を検討し活用する。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施する。

① 歌舞伎俳優・音楽

(歌舞伎俳優)

- (a) 歌舞伎俳優第 22 期生（研修期間 2 年、9 名）の 2 年目の養成を行い、修了を予定。
- (b) 歌舞伎俳優第 23 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

(歌舞伎音楽)

- (c) 竹本第 22 期生（研修期間 2 年、2 名）の 2 年目の養成を行い、修了を予定。
- (d) 竹本第 23 期生の募集について検討を行い、実施する予定。
- (e) 鳴物第 15 期生（研修期間 2 年、1 名）の 2 年目の養成を行い、修了を予定。
- (f) 鳴物第 16 期生の募集について検討を行い、実施する予定。
- (g) 長唄第 7 期生（研修期間 3 年、3 名）の 1 年目の養成を行う。

② 大衆芸能

- (a) 寄席囃子第 14 期生（研修期間 2 年、6 名）の 1 年目の養成を行う。

③ 能楽（ワキ・囃子・狂言：研修期間 6 年）

- (a) 第 9 期生（2 名）の 3 年目の養成を行う。
- (b) 第 10 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

④ 文楽（太夫・三味線・人形：研修期間 2 年）

- (a) 第 27 期生（3 名）の 2 年目の養成を行い、修了を予定。
- (b) 第 28 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

⑤ 組踊（立方・地方：研修期間 3 年）

- (a) 第 4 期生（10 名）の 3 年目の養成を行い、修了を予定。
- (b) 第 5 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。

① 既成者研修発表会を次のとおり実施する。

- (a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会（2 公演実施）
 - ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演（本館小劇場）8 月 18 日～21 日、8 回
 - ・ 上方歌舞伎会（文楽劇場）8 月 24 日～25 日、4 回
- (b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会（1 公演実施）
 - ・ 音の会（本館小劇場）8 月 12 日～13 日、2 回
- (c) 能楽既成者研修発表会（3 公演実施）
 - ・ 若手能（京都：観世会館）9 月 17 日、1 回
 - ・ 若手能（大阪：大槻能楽堂）1 月 21 日、1 回
 - ・ 若手能（東京：能楽堂）3 月 4 日、1 回
- (d) 文楽既成者研修発表会（4 公演実施）
 - ・ 文楽若手会（文楽劇場）6 月 18 日～19 日、2 回

- ・ 文楽若手会（本館小劇場）6月25日～26日、2回
- ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）8月25日、1回
- ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）2月24日、1回
- (e) 組踊既成者研修発表会（1公演実施）
 - ・ 若手伝承者公演（国立劇場おきなわ大劇場）12月3日、1回

② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。

ウ 実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。

また、研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。

① オペラ研修（研修期間3年）

- (a) 第17期生（5名）の3年目の研修を行い、修了を予定。
- (b) 第18期生（5名）の2年目の研修を行う。
- (c) 第19期生（5名）の1年目の研修を行う。
- (d) 第20期生（5名程度）の募集を行う。
- (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）7月2日～3日、2回
 - ・ 修了公演（新国立劇場中劇場）2月24日～26日、3回
 - ・ 歌唱コンサート（新国立劇場中劇場）11月8日、1回
- (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月～10月に海外研修を行う。

② バレエ研修（研修期間2年）

- (a) 第12期生（6名）の2年目の研修を行い、修了を予定。
- (b) 第13期生（7名）の1年目の研修を行う。
- (c) 第14期生（6名程度）の募集を行う。
- (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第7期生（5名）の2年目の研修を行う。
 - ・ 第8期生（2名）の1年目の研修を行う。
 - ・ 第9期生（若干名）の募集を行う。
- (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 発表公演（新国立劇場中劇場）10月22日～23日、2回
 - ・ 修了公演（新国立劇場中劇場）2月11日～12日、2回
 - ・ 「バレエ・アステラス2016」（新国立劇場オペラ劇場）7月31日、1回

③ 演劇研修（研修期間3年）

- (a) 第10期生（8名）の3年目の研修を行い、修了を予定。
- (b) 第11期生（13名）の2年目の研修を行う。
- (c) 第12期生（16名）の1年目の研修を行う。
- (d) 第13期生（16名程度）の募集を行う。
- (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）11月3日～13日、6回（予定）
 - ・ 修了公演（新国立劇場小劇場）2月10日～15日、6回（予定）
 - ・ 未定（新国立劇場小劇場）8月1日～6日、3回（予定）

イ 実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。

また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、成果が不十分なものについては廃止を含め、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直しを行う。

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。

また、研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介 DVD の活用、研修見学会の実施等により周知し、応募者の増加を図る。

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るとともに、伝統芸能及び現代舞台芸術の振興・普及のため、研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。

また、外部公演への出演依頼に積極的に応じて、文化普及活動への参画に努める。

ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。

エ 国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用して、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや外部研修への協力等に努める。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。

① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、上演内容の理解促進に活用する。

国立劇場開場 50 周年を記念し、「仮名手本忠臣蔵」の歌舞伎及び文楽の上演年表データを収録した CD を作成し、利用に供する。

② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究を行い、次のとおり刊行等を行う。

(a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十一巻の刊行及び第十二巻の刊行準備

(b) 「義太夫年表 昭和篇」第四巻の刊行準備

③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を行う。

(a) 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第五巻の刊行

(b) 未翻刻戯曲集第二十三巻の刊行

(c) 正本写合巻集(2冊)の刊行

イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施する。

① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

各館においては、伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主として各館で公開する分野に関する図書・資料を収集する。

図書については、開架図書を充実させるとともに、ホームページで蔵書検索サービスを提供するなど、一般の利用の促進に努める。

- ② 収集した資料等を活用し、次のとおり刊行を行う。また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与する。
- (a) 特別展示図録の刊行（能楽堂）
 - (b) 英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」(6)刊行（能楽堂）
- ③ 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、インターネットにより公開する。
- (a) 図書、資料及び公演記録等について、引き続き次の情報のデータベース化を行う。
 - ・ 図書（本館筋書）
 - ・ 錦絵
 - ・ ブロマイド
 - ・ 公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）
 - (b) 文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：520,000件
- ウ 収集した資料等を別表8のとおり展示公開する。実施に当たっては、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。
- 各館の収蔵資料を活用し、三井記念美術館において、三井記念美術館及びNHKプロモーションとの共催により「国立劇場開場50周年記念 日本の伝統芸能展」を開催する。
- また、本館劇場ロビーにおいて公演ポスター展を開催する。
- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。
- ① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会やリーディング公演を実施する。
 - ② 海外の主要劇場や演劇祭等の情報を引き続き収集して、公演の充実等に活用するとともに、公演プログラムやホームページ等において公開する。
 - ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、引き続き、整理・保存を行う。
- イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。
- ① 情報センターについて、閲覧室の開架図書を充実させるとともに、ホームページで所蔵資料検索サービスを提供するなど、一般の利用の促進に努める。
 - ② 図書資料管理システムについて、引き続き図書等の情報のデータベース化を行う。
 - ③ 所蔵品管理システムについて、引き続き過去の寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を行う。
- ウ 収集した資料等を、別表8のとおり展示公開する。実施に当たっては、引き続き、舞台美術センター資料館の活用方法について検討するとともに、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。
- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する。
- イ 公演記録映像については、鑑賞会等を開催するとともに、講座・レクチャー等で活用する。また、必要な著作権処理を行った上で、外部制作会社等と連携し、一層の有効活用を図る。
- ウ 公開講座等、普及活動の実施

- ① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開講座等を別表9のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、参加者に適宜アンケート調査を実施し、回答者の80%以上から有意義であったと回答されるよう内容等の充実に努める。
- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
- ③ 教職員の伝統芸能への理解を深め、教育を受ける児童・生徒に対して伝統芸能の普及促進を図る観点から、教員免許更新制における免許状更新講習を、文部科学大臣の認定を受けて実施する。
- ④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解を促進するため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実に努める。
- ⑤ 「現代舞台芸術入門オンラインツアー」等のオンラインコンテンツを充実させ、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信する。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

(1) 効率化に関する取組

ア 情報システムの活用

- ① 業務システムの安定稼働を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。
- ② 情報システムの更新に際し、情報セキュリティの確保を前提に、業務効率の一層の向上と運用経費の削減を図るため、外部サービスの活用を推進する。
- ③ 情報セキュリティ対策に関する意識を高めるため、各職員の自己点検の実施に加え、専門家による研修等を実施する。

イ 事務手続きの簡素化

館内LANの活用、各種マニュアルの整備等により事務手続きの効率化を図るとともに、決裁事務の簡素化を進める。

ウ 契約の適正化

- ① 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする。また、その取組状況をホームページで公表する。
- ② 契約監視委員会を引き続き設置して、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施する。
- ③ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施する。

エ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO₂)の削減を推進する。
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底する。
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。

(2) 給与水準の適正化

役職員の給与について、国家公務員の給与制度に関する総合的見直し等の動向を踏まえ、規定の整備等必要な措置を講ずる。また、給与水準の適正化に関する検証結果や取組状況について公表する。

(3) 組織機構の在り方の検討

業務運営の効率化等の進捗状況や過去の組織改正の効果を踏まえ、引き続き人員配置など組織機構の再編について検討し、必要な措置を講ずる。

(4) 保有資産の有効利用

施設の有効利用のため、引き続き適切な管理・運用に努めるとともに、各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加に努める。

また、金融資産については、経済状況を踏まえつつ、適切な管理・運用に努める。

(5) 内部統制の充実・強化

ア 平成 27 年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。

イ 上記の自己点検評価をもとに、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。

ウ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を整備するとともに、監事及び監事監査に係る機能の充実・強化を図る。

エ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。

III 予算

- 1 予算 別紙 1 のとおり
- 2 収支計画 別紙 2 のとおり
- 3 資金計画 別紙 3 のとおり

IV 短期借入金の限度額

運営費交付金の受入の遅延が生じた場合、短期借入金の限度額（10 億円）の範囲内で借入れを行う。

V その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

(1) 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。

(2) 事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。

ア 接遇、公演業務等の内部研修を実施する。

イ 会計、人事関係業務等の外部研修を活用する。

ウ 職員の心身の健康の保持増進を図る。

2 施設・設備に関する計画

(1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙 4 のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。併せて「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を踏まえ「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定する。また、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施する。

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備（以下「国立劇場等」という。）の改修については、国立劇場等大規模改修基本計画を踏まえ、その方針を基本設計及び実施設計につなげるため、具体的な調査研究を行う。また、今後の整備手法の検討のために行った大規模改修事業のPFI導入可能性調査の結果を踏まえ、PFI事業の実施に向けた手続きを行う。

なお、国立劇場等大規模改修に向けた検討及び調査研究については、評議員会、国立劇場等大規模改修懇談会等の意見を踏まえながら、国立劇場等大規模改修推進委員会が中心となって実施する。

- (2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。その際、国立劇場等については、今後の改修計画との関連に留意する。

3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

なお、委託に当たっては、自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る。

[別表1] 伝統芸能の公開に関する計画

下記公演のうち、本館大小劇場の9月から3月の公演については、「国立劇場開場50周年記念公演」として実施する。

1 歌舞伎		目標入場者数：248,500人		(27年度計画目標226,500人)	
公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月3日～27日	25回	25日	26,400人
11月歌舞伎公演	〃	11月2日～26日	24回	24日	25,400人
12月歌舞伎公演	〃	12月2日～26日	25回	25日	26,400人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	25回	25日	28,000人
3月歌舞伎公演	〃	3月4日～27日	24回	24日	26,400人
本公演（5公演）小計			123回	123日	132,600人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「新皿屋舗月雨暈」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	55,000人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「卅三間堂棟由来」	〃	7月3日～24日	44回	22日	60,900人
鑑賞教室（2公演）小計			90回	45日	115,900人
歌舞伎（7公演）合計			213回	168日	248,500人

2 文楽		目標入場者数：177,600人		(27年度計画目標175,900人)	
公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月文楽公演「絵本太功記」	本館小劇場	5月11日～23日	13回	13日	6,700人
9月文楽公演	〃	9月3日～19日	34回	17日	17,300人
12月文楽公演	〃	12月3日～19日	34回	17日	17,500人
2月文楽公演	〃	2月4日～20日	51回	17日	22,900人
5月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」、「曾根崎心中」	〃	5月11日～23日	24回	13日	13,000人
本館（5公演）小計			156回	77日	77,400人
4月文楽公演「通し狂言 妹背山婦女庭訓」	文楽劇場	4月2日～24日	44回	22日	19,100人
夏休み文楽特別公演	〃	7月23日～8月9日	54回	18日	21,500人
錦秋文楽公演	〃	10月29日～11月20日	44回	22日	19,300人
初春文楽公演	〃	1月3日～26日	46回	23日	21,800人
6月文楽鑑賞教室「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、「夏祭浪花鑑」	〃	6月3日～16日	28回	14日	18,500人
文楽劇場（5公演）小計			216回	99日	100,200人
文楽（10公演）合計			372回	176日	177,600人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等		目標入場者数：26,590人		(27年度計画目標17,600人)	
公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
9月舞踊公演「道成寺と日本舞踊（仮）」	本館大劇場	9月10日	2回	1日	2,500人
11月舞踊公演「舞の会－京阪の座敷舞－」	本館小劇場	11月26日～27日	3回	2日	1,520人
3月舞踊公演「舞踊名作鑑賞会」	〃	3月25日～26日	3回	2日	1,250人
7月邦楽公演	〃	7月9日	2回	1日	770人
10月邦楽公演「邦楽鑑賞会（一）」	〃	10月8日～10日	3回	3日	1,220人

1月邦楽公演「邦楽鑑賞会（二）」	〃	1月14日～15日	2回	2日	1,000人
5月雅楽公演「管絃―盤渉調と太食調―」	〃	5月28日	1回	1日	550人
11月雅楽公演「創造する雅楽（仮）」	〃	11月12日	1回	1日	380人
2月雅楽公演「舞楽」	本館大劇場	2月25日	1回	1日	1,440人
10月声明公演	〃	10月29日	2回	1日	2,590人
1月民俗芸能公演	本館小劇場	1月21日～22日	3回	2日	1,600人
3月琉球芸能公演「組踊『執心鐘入』と琉球舞踊（仮）」	〃	3月4日～5日	2回	2日	960人
4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」、特別公演「春の舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	4月16日	2回	1日	750人
6月 第5回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」/「日本舞踊を楽しむ」	〃	6月4日	2回	1日	840人
6月 第6回伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」	〃	6月11日	2回	1日	900人
7月特別企画公演「春日若宮おん祭」	本館大劇場	7月30日	2回	1日	2,580人
9月特別企画公演「日本の太鼓」	〃	9月24日～25日	2回	2日	2,390人
本館（17公演）小計			35回	25日	23,240人
10月舞踊公演	文楽劇場	10月15日	2回	1日	850人
8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	8月20日	1回	1日	450人
9月声明公演	〃	9月10日	1回	1日	650人
5月民俗芸能公演「東北の神楽」	〃	5月28日	2回	1日	1,000人
5月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	5月14日	1回	1日	400人
文楽劇場（5公演）小計			7回	5日	3,350人
舞踊・邦楽等（22公演）合計			42回	30日	26,590人

4 大衆芸能

目標入場者数：51,460人

（27年度計画目標52,000人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
定席公演（上席・中席）（22公演）	演芸場	毎月実施 （5月・1月は中席のみ）	241回	219日	34,900人
若手新人公演（花形演芸会）（12公演）	〃	毎月実施	12回	12日	3,240人
新春名人会	〃	1月2日～7日	8回	6日	2,300人
国立名人会（11公演）	〃	毎月実施 （1月を除く）	11回	11日	2,970人
特別企画公演（10公演）	〃	毎月実施 （5月・1月を除く）	14回	14日	3,790人
演芸場（56公演）小計			286回	262日	47,200人
浪曲名人会	文楽劇場	2月25日	1回	1日	670人
浪曲練声会	文楽劇場 小ホール	5月21日	2回	1日	290人
上方演芸特選会（6公演）	〃	奇数月に実施	24回	24日	3,300人
文楽劇場（8公演）小計			27回	26日	4,260人
大衆芸能（64公演）合計			313回	288日	51,460人

5 能楽

劇場：能楽堂

目標入場者数：35,895人

（27年度計画目標36,140人）

区分	公演名	期間	回数	日数	目標入場者数
定例公演	狂言「盆山」、能「鞍馬天狗 白頭」	4月5日	1回	1日	580人
	狂言「悪坊」、能「朝長 三世十方之出」	4月15日	1回	1日	580人

	狂言「塗師平六」、能「小袖曾我」	5月11日	1回	1日	580人
	狂言「昆布売」、能「呉服」	5月20日	1回	1日	580人
	狂言「腰折」、能「羽衣 盤渉」	6月1日	1回	1日	580人
	狂言「太刀奪」、能「景清」	6月17日	1回	1日	580人
	月間特集・能のふるさと 近江 能「白鬚」・間狂言「道者」	7月6日	1回	1日	580人
	月間特集・能のふるさと 近江 狂言「磁石」・能「自然居士」	7月22日	1回	1日	580人
	狂言「口真似聾」、能「敦盛」	9月7日	1回	1日	580人
	狂言「萩大名」、能「黒塚 雷鳴ノ出」	9月16日	1回	1日	580人
	狂言「合柿」、能「野宮」	10月5日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「木六駄」、能「葛城 大和舞」	10月21日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「木六駄」、能「葛城 神楽」	11月18日	1回	1日	580人
	狂言「飛越」、能「蟬丸」	11月30日	1回	1日	580人
	月間特集・観世信光 没後500年 狂言「箕被」、能「遊行柳」	12月7日	1回	1日	580人
	月間特集・観世信光 没後500年 狂言「胸突」、能「船弁慶 後之出留之伝」	12月16日	1回	1日	580人
	能「老松 紅梅天女イロエノ働キ」、狂言「大黒連歌」	1月4日	1回	1日	580人
	狂言「鞍馬参」、能「国栖」	1月20日	1回	1日	580人
	月間特集・近代絵画と能 狂言「鐘の音」、能「錦木」	2月15日	1回	1日	580人
	月間特集・近代絵画と能 狂言「酢薑」、能「三井寺」	2月24日	1回	1日	580人
	狂言「八句連歌」、能「邯鄲 藁屋」	3月1日	1回	1日	580人
	狂言「花盗人」、能「海人 懐中之舞」	3月17日	1回	1日	580人
定例公演 (22公演) 小計			22回	22日	12,760人
普及公演	解説、狂言「横座」、能「百万」	4月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「樋の酒」、能「鉄輪」	5月14日	1回	1日	610人
	解説、狂言「水掛聾」、能「藤戸」	6月11日	1回	1日	610人
	月間特集・能のふるさと 近江 解説、狂言「蚊相撲」、能「巴」	7月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「伊文字」、能「玉鬘」	9月10日	1回	1日	610人
	解説、狂言「菊の花」、能「熊坂」	10月8日	1回	1日	610人
	解説、狂言「二人袴」、能「三笑」	11月12日	1回	1日	610人
	月間特集・観世信光 没後500年 解説、狂言「縄綱」、能「胡蝶」	12月10日	1回	1日	610人
	解説、狂言「寝音曲」、能「巻絹」	1月14日	1回	1日	610人
	月間特集・近代絵画と能 解説、狂言「呂蓮」、能「葵上 梓之出・無明之祈」	2月11日	1回	1日	610人
	解説、狂言「濯ぎ川」、能「昭君」	3月11日	1回	1日	610人
普及公演 (11公演) 小計			11回	11日	6,710人
企画公演	【狂言の会】家・世代を越えて 狂言「二人大名」、狂言「鱸包丁」、狂言「武悪」	4月22日	1回	1日	590人
	【企画公演】寺社と能 春日大社 「翁 十二月往来・父尉延命冠者」、狂言「末広がり」、能「春日龍神 龍神揃」	4月29日	1回	1日	590人
	【企画公演】復曲再演の会 復曲狂言「連尺」、復曲能「菅丞相」	5月26日	1回	1日	590人
	【企画公演】月間特集・能のふるさと 近江 能と箏曲 箏曲「竹生島」、能「竹生島 女体・道者」・間狂言「道者」	7月28日	1回	1日	590人

【企画公演】月間特集・能のふるさと 近江 能と箏曲 箏曲「石山源氏 上・下」、能「源氏供養 真之舞入」	7月30日	1回	1日	590人	
【企画公演】働く貴方に贈る 対談、狂言「仏師」、能「通小町」	8月4日	1回	1日	590人	
【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「殺生石」	8月6日	1回	1日	590人	
【企画公演】素の魅力 仕舞「頼政」、狂言謡「御茶の水」、 狂言語「文蔵」、袴能「天鼓」	8月25日	1回	1日	590人	
【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、素囃子、狂言「雷」、新作狂言「太郎くんの冒険」	8月27日	1回	1日	590人	
【企画公演】女性能楽師による 仕舞「笠之段」、仕舞「玉之段」、仕舞「歌占 クセ」、能「草紙 洗」	9月22日	1回	1日	590人	
【企画公演】古典の日記念 安宅関の山伏問答 講談「勸進帳」、能「安宅 延年滝流・問答之習」	10月29日	1回	1日	590人	
【企画公演】古典の日記念 雪舞う里に 組踊「雪払い」、能「鉢木」	11月1日	1回	1日	590人	
【特別公演】月間特集・観世信光 没後500年 舞囃子「紅葉狩」、狂言「業平餅」、能「張良」	12月23日	1回	1日	590人	
【狂言の会】 狂言「佐渡狐」、狂言「鶏猫」、素囃子、狂言「政頼」	1月27日	1回	1日	590人	
【特別公演】 能「錦戸」、狂言「胼」、復曲能「綾鼓」	1月29日	1回	1日	590人	
【企画公演】月間特集・近代絵画と能 蠟燭の灯りによる 謡講、能「八島 弓流・奈須与市語」	2月18日	1回	1日	590人	
【企画公演】復興と文化V 講演、復曲能「阿古屋松」	3月23日	1回	1日	590人	
企画公演（17公演）小計		17回	17日	10,030人	
鑑賞教室	解説、狂言「柿山伏」、能「小鍛冶」	6月20日～24日	11回	5日	6,395人
鑑賞教室（1公演）小計		11回	5日	6,395人	
能楽（51公演）合計		61回	55日	35,895人	

6 組踊等沖縄伝統芸能

目標入場者数：16,683人

(27年度計画目標17,753人)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定期公演	組踊「銘苺子」	国立劇場おきなわ 大劇場	4月23日	1回	1日	339人
	三線音楽「女性音楽家の会」	〃	5月14日	1回	1日	402人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	5月28日	1回	1日	495人
	琉球舞踊「古典女七踊」	〃	6月18日	1回	1日	367人
	沖縄芝居 史劇「大新城忠勇伝」	〃	7月9日～10日	2回	2日	744人
	組踊「大城崩」	〃	7月16日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	9月10日	1回	1日	464人
	組踊「姉妹敵討」	〃	9月24日	1回	1日	339人
	組踊「雪払い」	〃	10月22日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「創作舞踊の会」	〃	12月10日	1回	1日	402人
	組踊「仲村渠真嘉戸」	〃	12月17日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「新春琉舞名人選」	〃	1月14日～15日	2回	2日	742人
	民俗芸能「沖縄本島民俗芸能祭」	〃	1月22日	1回	1日	425人
	組踊「執心鐘入」	〃	1月28日	1回	1日	339人
	沖縄芝居 喜劇「米を作る家」「こわれた 南蛮甕」	〃	2月4日～5日	2回	2日	744人
	組踊「父子忠臣の巻」	〃	2月25日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	〃	3月11日	1回	1日	433人

定例公演（17公演）小計				20回	20日	7,591人
企画公演	話芸	〃	6月25日	1回	1日	402人
	新作組踊「玉露の妖精」	〃	8月27日	1回	1日	367人
	ゆらていく遊ば	〃	10月8日	1回	1日	453人
	我らが住むは五大州Ⅱ	〃	10月29日～30日	2回	2日	813人
	国立劇場寄席	〃	11月12日	1回	1日	433人
	アジア・太平洋地域の芸能「胡弓」	〃	11月26日	1回	1日	371人
	新作組踊「さかさま『執心鐘入』」	〃	3月25日	1回	1日	396人
企画公演（7公演）小計				8回	8日	3,235人
研究公演	「執心鐘入」にまつわる芸能	〃	2月19日	1回	1日	402人
研究公演（1公演）小計				1回	1日	402人
普及公演	琉球舞踊鑑賞教室	〃	4月16日	1回	1日	464人
	社会人のための組踊鑑賞教室「二童敵討」	〃	6月11日	1回	1日	424人
	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	〃	8月6日	1回	1日	424人
	沖縄芝居鑑賞教室	〃	9月15日～17日	3回	3日	1,379人
	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	11月16日～19日	6回	4日	2,764人
普及公演（5公演）小計				12回	10日	5,455人
組踊等沖縄伝統芸能（30公演）合計				41回	39日	16,683人
伝統芸能分野（184公演）合計				1,042回	756日	556,728人

[別表2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ

目標入場者数：74,300人

(27年度計画目標75,400人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「ウェルテル」(新制作)	新国立劇場 オペラ劇場	4月3日～16日	5回	5日	6,100人
「アンドレア・シェニエ」	〃	4月14日～23日	4回	4日	5,000人
「ローエングリン」	〃	5月23日～6月4日	5回	5日	7,700人
「夕鶴」	〃	7月1日～3日	3回	3日	3,900人
楽劇「ニーベルングの指環」第1日 「ワルキューレ」(新制作)	〃	10月2日～18日	6回	6日	8,700人
「ラ・ボエーム」	〃	11月17日～30日	5回	5日	6,900人
「セビリアの理髪師」	〃	11月27日～12月10日	5回	5日	6,400人
「カルメン」	〃	1月19日～31日	5回	5日	7,400人
「蝶々夫人」	〃	2月2日～11日	4回	4日	5,500人
「ルチア」(新制作)	〃	3月14日～26日	5回	5日	7,300人
高校生のためのオペラ鑑賞教室「夕鶴」	〃	7月9日～15日	6回	6日	9,400人
オペラ(11公演)合計			53回	53日	74,300人

2 バレエ

目標入場者数：48,500人

(27年度計画目標47,400人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「ドン・キホーテ」	新国立劇場 オペラ劇場	5月3日～8日	5回	5日	6,000人
「アラジン」	〃	6月11日～19日	5回	5日	7,600人
「ロメオとジュリエット」	〃	10月29日～11月5日	6回	6日	8,700人
「シンデレラ」	〃	12月17日～25日	7回	6日	10,100人
ヴァレンタイン・バレエ	〃	2月17日～18日	2回	2日	2,600人
「コッペリア」	〃	2月24日～26日	4回	3日	4,500人
こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」(新制作)	〃	7月21日～24日	8回	4日	9,000人
バレエ(7公演)合計			37回	31日	48,500人

3 現代舞踊

目標入場者数：4,000人

(27年度計画目標5,950人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
高谷史郎(ダムタイプ)「CHROMA」	新国立劇場 中劇場	5月21日～22日	2回	2日	1,050人
JAPON dance project 2016	〃	8月27日～28日	2回	2日	1,100人
DANCE to the Future 2016 Autumn	新国立劇場 小劇場	11月18日～20日	3回	3日	750人
中村恩恵×新国立劇場バレエ団 「ベートーヴェン・ソナタ」	新国立劇場 中劇場	3月18日～19日	2回	2日	1,100人
現代舞踊(4公演)合計			9回	9日	4,000人

4 演劇

目標入場者数：51,700人

(27年度計画目標56,900人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
鄭義信 三部作 Vol. 2 「たとえば野に咲く花のように」	新国立劇場 小劇場	4月6日～24日	20回	17日	4,400人
鄭義信 三部作 Vol. 3 「パーマ屋スマイル」	〃	5月17日～6月5日	20回	18日	4,600人
「あわれ彼女は娼婦」	新国立劇場 中劇場	6月8日～26日	20回	17日	13,300人
「かぐや姫伝説」より 「月・こうこう, 風・そうそう」 (新作)	新国立劇場 小劇場	7月13日～31日	18回	17日	4,100人
「フリック」 (日本初演)	〃	10月	18回	17日	4,300人
「ヘンリー四世 第一部」	新国立劇場 中劇場	11月～12月	15回	25日	8,300人
「ヘンリー四世 第二部」	〃	11月～12月	15回		8,300人
かさなる視点—日本戯曲のカー Vol. 1 「白蟻の巣」	新国立劇場 小劇場	3月	18回	17日	4,400人
演劇 (8公演) 合計			144回	128日	51,700人
現代舞台芸術分野 (30公演) 合計			243回	221日	178,500人

[別表3] 主に青少年を対象とした公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「新皿屋舗月雨量」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	55,000人
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「卅三間堂棟由来」	〃	7月3日～24日	44回	22日	60,900人
文楽	5月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」、「曾根崎心中」	本館小劇場	5月11日～23日	24回	13日	13,000人
〃	6月文楽鑑賞教室「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、「夏祭浪花鑑」	文楽劇場	6月3日～16日	28回	14日	18,500人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「柿山伏」、能「小鍛冶」	能楽堂	6月20日～24日	11回	5日	6,395人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室	国立劇場おきなわ 大劇場	9月15日～17日	3回	3日	1,379人
〃	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	11月16日～19日	6回	4日	2,764人
伝統芸能（7公演）合計				162回	84日	157,938人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「夕鶴」	新国立劇場 オペラ劇場	7月9日～15日	6回	6日	9,400人
バレエ	こどものためのバレエ劇場 「白鳥の湖」（新制作）	〃	7月21日～24日	8回	4日	9,000人
現代舞台芸術（2公演）合計				14回	10日	18,400人

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表4] 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月10日	1回	1日
〃	6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人 のための歌舞伎鑑賞教室－」	〃	6月17日	2回	1日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7月8日・15日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7月18日～24日	14回	7日
文楽	5月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	5月13日・16日・20日	3回	3日
〃	5月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人 のための文楽鑑賞教室－」	〃	5月23日	1回	1日
〃	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6月7日・13日	2回	2日
〃	6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－ BUNRAKU for Beginners－」	〃	6月12日	1回	1日
〃	夏休み文楽特別公演（第一部親子劇場）	〃	7月23日～8月9日	18回	18日
舞踊・邦 楽等	6月 第5回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」/ 「日本舞踊を楽しむ」	本館小劇場	6月4日	2回	1日
〃	6月 第6回伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」/ 「邦楽を楽しむ」	〃	6月11日	2回	1日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月23日	1回	1日
能楽	6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教 室 Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	6月24日	1回	1日
〃	【企画公演】働く貴方に贈る	〃	8月4日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	〃	8月6日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	〃	8月27日	1回	1日
組踊等	琉球舞踊鑑賞教室	国立劇場おきなわ 大劇場	4月16日	1回	1日
〃	社会人のための組踊鑑賞教室「二童敵討」	〃	6月11日	1回	1日
〃	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	〃	8月6日	1回	1日
〃	組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	〃	11月19日	1回	1日

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表5] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
受託	文化庁芸術祭祝典	本館大劇場	10月1日 (1回)	文化庁芸術祭執行委員会
〃	国立劇場おきなわ連携事業	沖縄県内公立文化施設	2回程度	調整中
〃	沖縄県文化観光戦略推進事業 (国立劇場おきなわ県外公演)	京都芸術劇場春秋座、他	6月5日(1回)、他	沖縄県、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、他
〃	沖縄県文化観光戦略推進事業 (マグネットコンテンツ育成事業)	国立劇場おきなわ小劇場	11月予定	沖縄県
共催	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ小劇場	6月～3月 (15回予定)	(公財) 沖縄県文化振興会

[別表6] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	6月26日 (2回)	(公財) 静岡県文化財団、静岡県、他
〃	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立青少年センター	7月26日～27日 (4回)	かながわ伝統芸能祭実行委員会
〃	国立劇場おきなわ県外公演 (沖縄県文化観光戦略推進事業)	京都芸術劇場春秋座、他	6月5日(1回)、他	沖縄県、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、他
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演) 「フィガロの結婚」	ロームシアター 京都	10月26日・28日 (2回)	京都市、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団
受託	演劇「焼肉ドラゴン」	兵庫県立芸術文化センター	4月8日～9日 (2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	演劇「たとえば野に咲く花のように」	兵庫県立芸術文化センター	4月28日～29日 (2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	演劇「パーマ屋スマイル」	北九州芸術劇場	6月11日～12日 (2回)	(公財)北九州市芸術文化振興財団
〃	〃	兵庫県立芸術文化センター	6月17日～18日 (2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」	サンポートホール 高松	9月19日 (1回)	(公財)高松市文化芸術財団
〃	バレエ「シンデレラ」	オーバードホール	1月8日 (1回)	(公財)富山市民文化事業団
〃	〃	びわ湖ホール	1月14日 (1回)	(公財)びわ湖ホール

[別表7] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間(回数)	連携協力先等
6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	6月17日 (2回)	
5月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	5月23日 (1回)	
6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」	文楽劇場	6月12日 (1回)	
6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	6月24日 (1回)	
組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	国立劇場おきなわ大劇場	11月19日 (1回)	
アジア・太平洋地域の芸能「胡弓」	〃	11月26日 (1回)	文化庁芸術祭執行委員会

[別表8] 展示に関する計画

目標来場者数：185,290人

(27年度計画目標186,020人)

展示名称	会場	期間	日数	目標来場者数
企画展示「新派の華一面影と今日ー」	伝統芸能情報館 資料展示室	4/1～4/17	17日	1,530人
企画展示「歌舞伎・文楽入門」(仮称)		4/29～8/21	114日	16,188人
企画展示「国立劇場50周年記念」前編(仮称)		9/3～11/27	86日	12,075人
企画展示「国立劇場50周年記念」後編(仮称)		12/2～3/27	111日	15,207人
伝統芸能情報館 小計		4回	328日	45,000人
演芸資料展「昭和・平成の寄席」	演芸場 資料展示室	4/1～7/25	98日	12,593人
演芸資料展「未定」		8/1～11/23	98日	12,466人
演芸資料展「未定」		12/1～3/25	86日	10,941人
演芸場資料展示室 小計		3回	282日	36,000人
収蔵資料展	能楽堂 資料展示室	4/15～6/1	41日	4,550人
入門展「能楽入門」		6/11～8/6	49日	6,690人
特別展「宇和島伊達家の能楽」		10/5～12/7	55日	8,800人
企画展「能絵の世界」		1/4～3/17	63日	7,000人
能楽堂資料展示室 小計		4回	208日	27,040人
常設展示「文楽入門」	文楽劇場 資料展示室	4/2～6/19	79日	19,680人
企画展示「未定」		7/23～9/10	50日	16,620人
企画展示「未定」		9/21～11/20	61日	13,070人
常設展示「文楽入門」		1/3～2/28	57日	15,080人
文楽劇場資料展示室 小計		4回	247日	64,450人
企画展「琉球舞踊」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/16～6/26	72日	3,096人
企画展「沖縄芝居」		7/9～9/18	72日	3,096人
企画展「組踊入門」		10/8～12/18	72日	3,096人
企画展「民俗芸能」		1/14～3/19	65日	2,712人
国立劇場おきなわ資料展示室 小計		4回	281日	12,000人
伝統芸能分野 合計		19回		184,490人
常設展「オペラハウスの感動」	舞台美術センター 資料館	通年	260日	800人
企画展「舞台のデザイン ～模型で見る新国立劇場のオペラ・バレエ～」①		4～11月 (予定)		
企画展「舞台のデザイン ～模型で見る新国立劇場のオペラ・バレエ～」②		11～3月 (予定)		
舞台美術センター資料館 小計		3回	260日	800人
公演関係展示(シェイクスピア関連展示)	新国立劇場内	11月～12月	未定	-
現代舞台芸術特別展示		1月	未定	-
公演関係展示(その他)		随時		-
舞台衣裳展示		通年		-
公演記録写真展示		通年		-
新国立劇場内 小計		5回		-
現代舞台芸術分野 合計		8回		800人
総合計				185,290人

※ 4/1から開催する、伝統芸能情報館資料展示室の企画展示「新派の華」及び舞台美術センター資料館の企画展「舞台のデザイン」①は、27年度から継続して開催。

※ 上記のほか、国立劇場開場50周年記念事業の一環として、三井記念美術館において特別展「日本の伝統芸能展」を三井記念美術館及びNHKプロモーションとの共催により開催する予定(平成28年11月26日～平成29年1月28日)。また、本館劇場ロビーにて公演ポスター展を実施予定。

[別表9] 公開講座等に関する計画

目標参加者数：8,036人

(27年度計画目標7,430人)

講座等名称	会場	実施時期	回数	目標参加者数
伝統芸能サロン	伝統芸能情報館レクチャー室	隔月実施	6回	570人
公演記録鑑賞会	〃	毎月実施	14回	1,400人
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	毎月実施	12回	1,800人
能楽特別講座	〃	未定	1回	100人
公演記録鑑賞会	文楽劇場小ホール	毎月実施	12回	1,500人
伝統芸能講座	〃	未定	1回	70人
公演記録鑑賞会	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4回	480人
沖縄伝統芸能公開講座	国立劇場おきなわ 会議室・交流プラザ室	四半期毎	4回	180人
伝統芸能分野 合計			54回	6,100人
現代舞台芸術公開講座	舞台美術センター資料館	未定	1回	150人
DVD現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12回	70人
現代舞台芸術公開講座	新国立劇場内	毎月実施	14回	1,500人
DVD現代舞台芸術鑑賞会	新国立劇場情報センター	毎月実施	12回	216人
現代舞台芸術分野 合計			39回	1,936人
総合計			93回	8,036人

別紙1 予算（年度計画の予算）

平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
収 入						
運営費交付金	181	6,026	704	819	2,322	10,053
文化芸術振興費補助金	3,752					3,752
施設整備費補助金		1,232	13	7	136	1,388
助成事業収入	1,145					1,145
うち基金運用収入	1,129					1,129
うち寄附金収入	1					1
うちその他の収入	14					14
国立劇場事業収入		3,011	31	9		3,051
公演事業収入		3,011				3,011
うち公演事業収入		3,002				3,002
うち雑収入		9				9
研修事業収入			31			31
調査研究事業収入				9		9
国立劇場おきなわ事業収入		1				1
新国立劇場事業収入		231				231
受託事業収入						-
一般管理収入					17	17
計	5,078	10,501	748	836	2,475	19,637
支 出						
文化芸術振興費	3,752					3,752
施設整備費		1,232	13	7	136	1,388
助成事業費	1,475					1,475
うち人件費	191					191
うち物件費	1,284					1,284
国立劇場事業費		6,179	419	715		7,313
公演事業費		6,179				6,179
うち人件費		1,595				1,595
うち物件費		4,583				4,583
研修事業費			419			419
うち人件費			123			123
うち物件費			296			296
調査研究事業費				715		715
うち人件費				226		226
うち物件費				489		489
国立劇場おきなわ事業費		452	49	69	98	669
新国立劇場事業費		2,745	266	45	1,076	4,133
受託事業費						-
一般管理費					1,164	1,164
うち人件費					880	880
うち物件費					284	284
計	5,227	10,608	748	836	2,475	19,893

（注）四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙2 収支計画

平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
費用の部						
基金助成事業費	5,227					5,227
うち人件費	191					191
うち物件費	5,036					5,036
うち文化芸術振興費	3,752					3,752
うち芸術文化振興基金助成費等	1,284					1,284
国立劇場公演等事業費		6,238	404	678	98	7,419
公演事業費		5,805				5,805
うち人件費		1,595				1,595
うち物件費		4,209				4,209
研修事業費			355			355
うち人件費			123			123
うち物件費			232			232
調査研究事業費				609		609
うち人件費				226		226
うち物件費				383		383
国立劇場おきなわ公演等事業費		433	49	69	98	650
受託事業費						-
新国立劇場公演等事業費		2,441	266	45	1,076	3,829
一般管理費					1,124	1,124
うち人件費					880	880
うち物件費					244	244
減価償却費		817	9	32	43	900
計	5,227	9,496	680	754	2,342	18,499
収益の部						
基金助成事業収入	5,078					5,078
うち運営費交付金収益	181					181
うち文化芸術振興費補助金収益	3,752					3,752
うち基金運用収入	1,129					1,129
うち寄附金収入	1					1
うちその他の収入	14					14
国立劇場公演等事業収入		6,186	404	678	98	7,366
公演事業収入		5,752				5,752
うち運営費交付金収益		2,741				2,741
うち雑収入		9				9
うち公演事業収入		3,002				3,002
研修事業収入			355			355
うち運営費交付金収益			324			324
うち雑収入			31			31
調査研究事業収入				609		609
うち運営費交付金収益				600		600
うち雑収入				9		9

国立劇場おきなわ公演等事業収入		433	49	69	98	650
うち運営費交付金収益		432	49	69	98	649
うち国立劇場おきなわ事業収入		1				1
受託事業収入						-
新国立劇場公演等事業収入		2,441	266	45	1,076	3,829
うち運営費交付金収益		2,210	266	45	1,076	3,597
うち新国立劇場事業収入		231				231
一般管理収入					1,124	1,124
うち運営費交付金収益					1,107	1,107
うち雑収入					17	17
資産見返運営費交付金戻入		817	9	32	43	900
計	5,078	9,443	680	754	2,342	18,297
純利益	△ 149	△ 53				△ 202
積立金取崩額	149	53				202
総利益						-

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙3 資金計画

平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
資金支出	10,155	10,608	748	836	4,503	26,849
業務活動による支出	6,227	8,679	671	722	2,299	18,598
投資活動による支出		1,929	77	113	176	2,295
翌年度への繰越金	3,927				2,028	5,956
資金収入	10,155	10,608	748	836	4,503	26,849
業務活動による収入	6,078	9,269	735	829	2,339	19,250
運営費交付金による収入	181	6,026	704	819	2,322	10,053
文化芸術振興費補助金による収入	3,752					3,752
公演事業による収入		3,234				3,234
公演受託事業による収入						-
基金運用による収入	1,129					1,129
その他の収入	1,015	9	31	9	17	1,081
投資活動による収入		1,232	13	7	136	1,388
施設整備費補助金による収入		1,232	13	7	136	1,388
その他の収入						-
前年度よりの繰越金	4,077	107			2,028	6,212

（注）四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙4 施設・設備に関する計画

平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	予定額	財源
国立劇場等大規模改修工事関連調査等	181	施設整備費補助金
国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事等	104	施設整備費補助金
国立能楽堂基幹施設整備	165	施設整備費補助金
国立文楽劇場基幹施設整備	34	施設整備費補助金
国立劇場おきなわ基幹施設整備	242	施設整備費補助金
新国立劇場基幹施設整備	323	施設整備費補助金
国立文楽劇場舞台機構設備整備工事	102	施設整備費補助金
新国立劇場舞台機構設備整備工事	32	施設整備費補助金
新国立劇場舞台照明設備整備工事	159	施設整備費補助金
国立劇場おきなわ舞台照明設備整備工事	46	施設整備費補助金